

「生きている間に山陰新幹線に乗りたいです。山陰新幹線ができるのはいつ頃でしょうか？」

令和2年6月17日

●山陰新幹線実現期成同盟さんからの質問

生きている間に山陰新幹線に乗りたいです。山陰新幹線ができるのはいつ頃でしょうか？山陰新幹線の為にどのような手続きが必要なのでしょうか？

●西田昌司の答え

私は今、60代ですが、私も何としても生きている間に山陰新幹線に乗りたいと思っていますし、そうすると20年以内には完成させなければなりません。

昭和48年に、11の新幹線基本計画（北海道南回り新幹線、羽越新幹線、奥羽新幹線、中央新幹線、北陸・中京新幹線、山陰新幹線、中国横断新幹線、四国新幹線、四国横断新幹線、東九州新幹線、九州横断新幹線）が立てられましたが、これらを全て実現させるために私は活動しています。

私は、『整備新幹線等鉄道調査会』の下に設立された『鉄道のこれからを考えるPT』の座長を務めています。明日、PTの総会を開きます。その場で（来年度以降の予算計画の）方針を示しますが、今回のコロナショックを受けて方針を大きく転換しています。

これまでは、国と地方自治体が費用を負担して路線を敷いて、路線の利用料をJRから徴収することになっていました。しかし、今回のコロナショックで地方自治体やJRの財政状況は逼迫していますので、とてもではありませんが費用負担を求めることはできません。JR東海のドル箱であった東海道

新幹線ですら、乗車率が1割程度という状況が続いて大変な赤字となっていますし、（年間では黒字になるかもしれませんが）昨年と比べて大幅な減収減益となることは間違いありません。このような状況下においては、国が面倒を見る以外ないのです。

今回のコロナショックに際して国は60兆円を超える追加の支出をしています。今の凄まじい経済の落ち込みを前にすれば、政府の財政出動を批判する声は流石にほとんどありませんし、一部の野党やマスコミが未だに財政再建がどうのこうのと騒いでいるものの、以前よりも財政出動をやりやすい空気にはなってきています。

政府は今、大量の通貨発行していますが、それによって何の問題も起こっていません。60兆円台の財政出動をしても、円は暴落しませんし、国債金利も低いままです。すなわち、今回のコロナショックによってMMTの正しさが証明されたのです。コロナショックは大きな不幸ではありますが、（10～20年の間に）11の新幹線路線を一気に完成させるきっかけとなるよう上手く利用すれば、禍が福にもなるのです。

全額国費による新幹線ネットワークの構築をこれから実現していきますし、まずはこれを『骨太の方針』に盛り込むことを目指しています。全額国費とするためには法律を変えなくてはなりませんし、本来は今国会で取り組む予定でしたが、コロナショックのために時間がとれませんでしたので、次期国会で議論したく思っています。

新幹線ネットワーク構築は30兆円あればできます。今回、コロナショックのために60兆円の追加支出をしましたが、それに比べると新幹線ネットワーク構築は少ない予算（10年で完成させるとなると、毎年3兆円）で実現できるのです。今は金利が非常に低いですから、長期的で大規模な予算を立てるのに良いタイミングですし、このことは麻生財務大臣ですらおっしゃっていますから、財務省も文句は言えないはずです。

新幹線ネットワークの構築を私の生きている間に実現させるよう粉骨砕身いたしますので、それまでの間、元気にお過ごしください。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>